

○棟上げの大工と起重機秋暑し  
胸キュンの案山子佇む赤提灯  
新築の音の調和や秋高し

丞子



○わたしから手足はみだす残暑かな  
よっちゃんと呼ばれ案山子の照れ笑い  
法師蟬まず言葉から風化する

万貴

郁子



過疎の村人より多き案山子かな  
道標しるべかくれるほどの草の花  
ひっそりと塾帰りして夜食の子

佐枝



草むらに秋風そよぐポーチュラカ  
我庭のひょうたん池も和金すむ  
裏山にのぼりて見ゆる紫式部

笛子



道彦



○秋風や黒堀越しに三味の音おと  
まほろばの彼方に岡豊案山子立つ  
いにしへの蓑笠ほしき残暑かな

彩香



○よく噛んで食べる素食や虫の夜  
ネクタイを替えて無口や月の盆

富江

○墓参り隣ちつくと鎌入れて  
○沿線に祖母の笑顔か里案山子  
餌を奪い鳶の視界に残暑かな

酔花



値上がりは喫茶店にも顔を出し  
残暑なりもうすぐ変わる信号機  
猫の奴片足たらし残暑かな

佐和子



○案山子の背ひとつは妣の猫背なり  
○宿題を広げしままの子の残暑  
○満月の鉄腕アトム人の子に

ゆの

○故郷の夏をちぎれば青くさい  
○秋暑しバイリンガルの美女の群  
きりきりと男前なる案山子かな

えり



着た切りの案山子になびきこがねいろ黄金色  
何色に塗り潰そうかこの残暑  
ホットコヒ所望の声は秋の鳩

文子



村里の人より多き案山子かな  
元上司残暑見舞の便りあり  
雨はげし小学生の秋通路

美貴

只たつてゐるが案山子でありにけり  
遠目にも案山子は案山子傾ぎをり  
トランプの言いたい放題秋暑し

夕子



○夕方になればうろつきだす残暑  
秋暑し麦茶ぱックを買ひ足して  
秋暑し水分補給して部活

農子



カーテンの木陰の深く秋暑し  
青空へウインク送る捨案山子  
独り居の庭に花火の名残かな

弘

○つくつくし香典袋買いに行く  
○負け組のひとり案山子がイッていた  
火の元は確かめたはず秋暑し

初枝



○棚田刈る関西弁のボランティア  
進学塾クラス編成秋暑し  
猛残暑こやつに負けて髪を切る

味元 昭次 作品

廃屋を凝視している老案山子  
イケメンの案山子を置いて農婦逝く  
短足胴長しかも用済みの案山子です

